

巻頭言 新たなGP選定とCETLの抱負

教育・学習活動支援センター長 関田 一彦

文部科学省の大学助成施策の中でも、本学にとって大きな意義を持つのが“GP”（グッド・プラクティス）である。学生中心の大学として、また、人間教育の最高学府を目指す大学として、他大学の見本となる教育実践を行っている証の一つが、GP選定だからである。

本学の取組は、学部教育に関わるものに限っても、平成15年度特色GP、平成17年度教員養成GP、平成19年度特色GPならびに現代GPという具合に、GP制度が始まってからほぼ毎年のように採択されている。（過去の実績参照：<http://www.soka.ac.jp/about/reformation/index.html>）そして平成21年度も、CETLを中心とした取組が教育推進GPに選定された（私大に限れば8.3倍の競争率であった）。

平成15年度の特徴GPは、全学的なFDの推進に際して、学習支援活動も視野に入れたCETLのユニークな取組が評価されたものだった。ただし、教育活動と学習活動の両方を支援するといっても、当時は、大学としてもFDの組織的展開を急いでおり、勢い、取組は教員の意識啓発と授業改善にかかわるイベントが中心になっていった。

ところが近年、色々な意味で手のかかる入学者が増す中で、本学でも初年次教育の重要性が広く認知され、基礎ゼミやアカデミック・アドバ

イザー制度など、全学的な取組が本格化してきた。こうした動きに対してCETLとして、学習スキル訓練を柱にした重層的な支援体制の整備で応援しようというのが、今回の選定企画である。基礎ゼミに限らず、様々な機会に「学び方」を教えることが教員の仕事になってくると、「学び方」の教え方が問われてくる。そこで、今回のGPを追い風に、学習支援を中心においたFDを進めたい。

知識詰め込み型の授業では、暗記学習が幅を利かせる。一方、批判的思考や創造的思考を促す授業には、暗記学習はそぐわない。暗記学習しか知らない学生には、創造的人間の育成を目指す本学にふさわしい学習法を身につけてもらいたい。望ましい学び方を指導するには、その学び方を必要とする授業が行われねばならない。

したがって、学生には「学び方」を、教員には「学び方」が身につく「教え方」を意識してもらいたい。そのためにも学部とCETLの間に、カリキュラム（学士課程）全体に対する責任を分かち合いつつ、正課と課外の分業を進めるパートナーシップを育てていきたい。それができるかどうか、今回のGP事業の成否を左右すると考える。

2009年度FDフォーラム開催予告

本年度の全学FDフォーラム（全学FD委員会主催、CETL共催）は、本学が現在取り組んでいるいくつかのGP事業の紹介を兼ねたGP合同フォーラムと合わせて、12月12日（土）・13日（日）の2日間にわたり開催されます。

全学FDフォーラム

今年で7回目になるFDフォーラムでは、本年がCETL開設10年目の佳節にあたることから、これまでの取組を振り返りつつ、これからの発展を展望する機会としたいと考えます。

基調講演には、本学最初のFD講演会の講師であった寺崎昌男先生を再びお招きします。講演に続くパネルトークでは、CETL創設の中心者であった馬場副学長（当時の教務部長）、初代センター長の坂本教育学部長と現センター長の関田

が、CETLのあゆみと今後を展望します。そして、パネルトークのコメンテーターに、昨年の基調講演者である池田輝政先生をお願いしています。名城大学の教育改革を担う立場から、本学の取組について忌憚ない御意見をいただくことになっています。

今回のフォーラムが、本学の教育戦略の一端を参加者の皆さんと確認しあう機会になれば幸いです。

12日スケジュール

12:30 受付開始

13:00 開会の挨拶 馬場善久 副学長

13:10 基調講演 「学士課程教育の拡充と私学教員の使命」
講師：寺崎昌男 立教大学本部調査役

14:45 <休憩>

15:00 パネルトーク 「創価大学の教育・学習支援10年のあゆみ」
パネラー：馬場善久 副学長
坂本辰朗 教育学部長
関田一彦 CETLセンター長
コメンテーター：池田輝政 名城大学副学長

16:45 閉会の挨拶

16:50 退場開始

GP合同フォーラム

本学を含め、八王子にキャンパスを持つ大学など高等教育機関が連携し、学園都市八王子の

新たな発展を目指す『八王子未来学』構想が、昨年度の大学連携（地域）GPに採択されていま

す。さらに今年度も、帝塚山大学を代表校として申請した取組『北海道・関東・東海・近畿の大学連携による「知域」拡大プロジェクト』が採択されました。

また、本年はICTの教育活用をすすめる現代

GPの取組（「学生が協調的に作問可能なWBTシステム」）が最終年度にあたります。そこで、こうした取組を紹介する機会を合同フォーラムとして設けました。

13日スケジュール

9:00 受付開始

9:50 開会挨拶 「創価大学のGPへの取組について」

馬場善久 副学長

【第1部：八王子未来学の取組より】

10:05 取組紹介「八王子の大学連携について」

水谷惟恭 東京工業高等専門学校長

10:40 基調講演「大学間連携の推進について」

今泉柔剛 文部科学省高等教育局 大学改革推進室長

11:15 <昼休憩>

※11:15～12:15で未来学関係者を対象にキャンパスバスツアー

【第2部：現代GPの取組より】

13:00 挨拶「現代GPの取組について」

勅使河原可海 工学研究科長

13:05 実績報告「現代GPの取組とその成果（仮）」

高木正則 工学部助教

13:30 基調講演「持続可能なe-learning活用の組織的知識マネジメントとFD」

岡本敏雄 教育システム情報学会会長

14:15 <休憩>

14:30 パネルディスカッション「ICTを活用した教育の展望」

パネラー：小松川浩 千歳科学技術大学 教授

中島航一 帝塚山大学 教授

大西淑雅 九州工業大学 講師

穂屋下茂 佐賀大学 教授

石橋博道 情報システム部 課長

コーディネーター：望月雅光 副教務部長

16:15 閉会の挨拶

関田一彦 CETLセンター長

16:25 退場開始

まず、午前の部では、八王子未来学の幹事校である東京高専の水谷校長から、取組の概要を紹介いただきます。そして午後の部では、最初に現代GPの最終年度成果報告を行います。

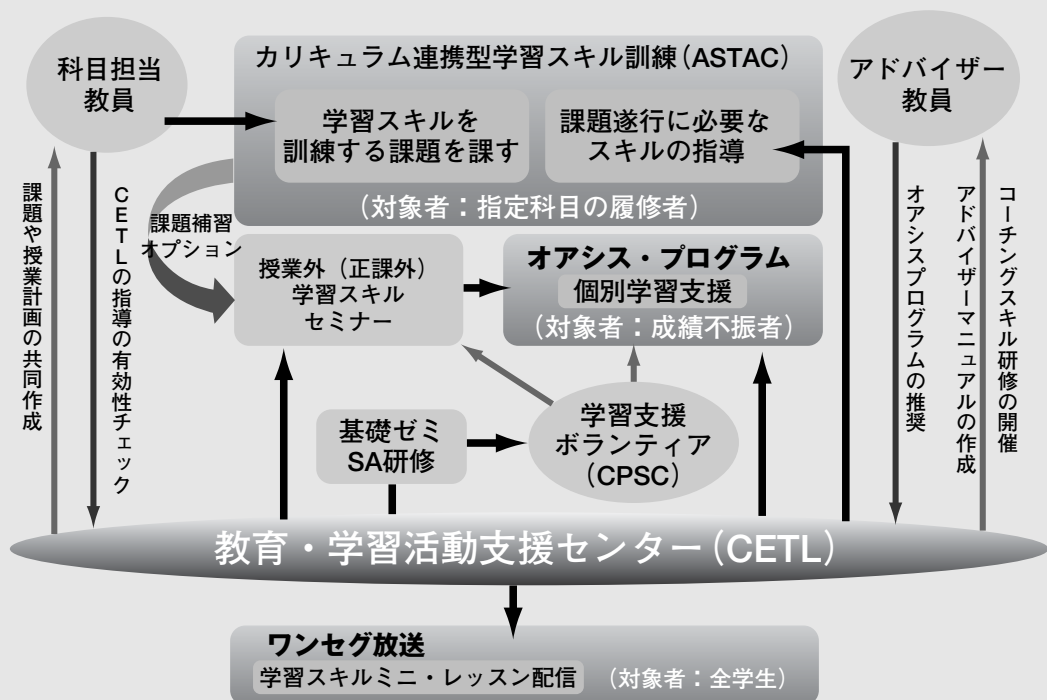
つづいて、教育システム情報学会の岡本会長に講演をいただいた後、本年度採択の連携GPとも関連する「インターネットを活用した教育」

における大学連携の意義についてパネルディスカッションを行います。パネラーである千歳科学技術大学、帝塚山大学、九州工業大学、佐賀大学はいずれもICT活用教育では先導的な大学です。基調講演および各大学の取組紹介を通じて、日本の大学におけるICT活用教育の姿が垣間見られることでしょう。

大学教育推進GP【テーマA】の取組について

本取組は（取組名称「初年次・導入教育を支える学習支援体制整備」）、1、2年生を対象にした学習スキル訓練を様々な方法で行うものです。CETLはスキルを教え、教員はそのスキルを授業（学習課題や学習活動）を通じて鍛える、という役割分担を想定しています。

1年前期の基礎ゼミだけで学習スキルが身につく学生は多くありません。スキルは繰り返し使うことで身につきますが、基礎ゼミだけでは練習の機会が十分とはいえません。そこで、共通科目や学部の導入科目と連携して、基礎ゼミで学んだスキルの幾つかを意図的に使わ



せる課題を設定します。担当教員とCETLが学習課題を介して協力し合うことで、学生の学習スキルを鍛えようという試みです（ASTACと呼びます）。

CETLが扱おうとする学習スキルは大きく分けると、インプット、アウトプット、セルフコントロールに関するものです。インプットとは、具体的にはテキストの読み方、講義の聴き方、そして図書館の使い方です。アウトプットとはノートの取り方、文献のまとめ方、レポートの書き方、発表の仕方などです。セルフコントロールとは、目標設定やタイムマネジメント、自己主張・自己決定するスキルのことです。

これらに全て関わるツールにマインドマップがあります。近年、ビジネス書のコーナーを中心に、マインドマップに関する書籍が目立つようになってきました。小学校から大学まで、教育の現場でも利用例が急増しています。そして、マインドマップの活用法の背後にはNLPの考え方やテクニックがあります。（NLPは80年代に心理療法の技法としてアメリカから伝わったようですが、今ではコーチングの有力な方法としてビジネス界を中心に広まっています）。CETLでは、このマインドマップとNLPコーチングを組み合わせ、学業不振者の指導に活かそうと考えています（オアシス・プログラムと呼びます）。

アカデミック・アドバイザー向け研修では、マインドマップとNLPコーチングの基礎を学んでいただきます。アドバイザーご自身が、これらの技法を使いこなして学生を指導するかどうかは別にして、オアシス・プログラムが提供するサービスをご理解いただくことが重要です。学生によって指導すべき課題は異なりますので、アドバイザーにはオアシス・プログラムがその学生に有効かどうか判断していただく必要があるからです。必要と判断された場合、プログラム参加を学生に勧めていただき、同時にCETL宛てに推薦状という形で、アドバイザーの所見をご提出願うこととなります。

学業不振者向けの特別なプログラム以外に、より一般的な学習スキルについては学習セミナーと銘打って、ほぼ毎月、課外講習会を開きます。また、エリアワンセグ放送を利用して、学習法に関する番組を提供します。関連して、こうした事業への学生の参画を促します。そのためにも基礎ゼミSA向けの研修を行い、学習スキルについて学んだ学生を中心に、学習支援ボランティアを組織化し、先輩・後輩、あるいは同輩同士の繋がりの中で、学習法についてアドバイスしあえる雰囲気を生み出したいと考えています。

本年度第3、第4、第5FDセミナーを開催

第3回FDセミナー

本年度第3回目のFDセミナーが、7月22日（水）午後4時40分から6時30分まで、A424教室

において「グループディスカッションの指導法」と題して開催されました。学期末にも関わらず

20名を超える先生方が集まりました。

今回はキャリアセンターとの共同企画として、キャリアセンターの羽賀文湖さん（左の写真）



に就職試験における
集団討議／集団面接
の実態について説明
を受けました。続い

て、実際に求められる
ディスカッション・スキルレベルを、一流企業
に内定が決まっている現役学生による、模擬グ
ループディスカッションの観察を通して学びあ
いました。

今回、模擬ディスカッションを演じていた
いたのは、楠本明美さん（法学部）、宮木淳子さ
ん（経済学部）、佐藤伸幸さん（文学部）、石黒
俊明さん（経営学部）、宮田祐衣さん（教育学部）
の5名の4年生です。この方たちは、キャリア
センターの就職活動支援ボランティア（RSSと
呼びます）として、後輩の激励・指導に活躍し

ている皆さんです。

●参加者の声（参加アンケートより）

- ・実際のディスカッションの現場を見せていた
だき、とても勉強になりました。
- ・ゼミの進行の仕方の参考になりました。
- ・是非、授業やゼミの中でグループディスカッ
ションをやっていき、語学力だけでなく、考
える力、分析力、コミュニケーション力を高
めていけるように工夫したいと強く思いま
した。



模擬グループディスカッション観察の様様

第4回FDセミナー

本年度第4回目FDセミナーが、9月26日（土）
午前10時00分から午後4時30分まで、「教材作成
とeラーニングの活用」と題して開かれました。

本学は、文部科学省の平成21年度戦略連携GPに
選定された帝塚山大学を代表校とする取組（『北
海道・関東・東海・近畿の大学連携による「知域」
拡大プロジェクト』）に参画しています。今回の
セミナーでは、取組の実際と本学の役割について
（http://www.soka.ac.jp/newstopics/2009_0715_3.html）まず午前中、A424教室でTIES（帝塚山教育システム）について説明を受けました。午後

からは、会場をLB110に移して、実際の操作を
体験しました。



帝塚山大学の堀真寿美さん



システムの体験実習の様様

今回は午前・午後、合わせて5時間を超える長いセミナーになりましたが、最後まで学びの

多い一日に、参加者の満足度はとても高いものでした。

●参加者の声（参加アンケートより）

- ・大変有用な教育支援システムであると感じました。
- ・授業で活用したいと思います。
- ・もっとも苦手とする分野の研修だと思っていたのですが、今後の授業改善に向け、有効な研修内容であると実感しました。

第5回FDセミナー

本年度第5回FDセミナーが10月16日（金）午後4時45分から6時15分まで、「図書館活用の指導法」と題してA424教室で開催されました。

図書館利用法については基礎ゼミ等でもガイダンスを行っていますが、必ずしも授業で十分に活用されているとはいえません。図書館を大学の共有財産としてさらに活用していこうというのが本セミナーを企画した意図でした。

最初に図書館事務室の山口喜一郎主事（左の



写真）より図書館ガイダンスで新入生に提供している内容の紹介を受けました。

続いて、文学部の坂

井孝一先生と工学部の新津隆士先生から授業・ゼミ等での図書館活用実例の報告がありました。その後、再び山口主事の方から「授業で活用できる図書館機能」についての説明を受けました。その後、参加者の経験や気付いたことなど意見交換や質疑応答が活発に行われました。

●参加者の声（参加アンケートより）

- ・図書館が「学習支援センター」としての機能を持つことがよくわかり、自身の研究はもとより、学生の研究充実のために、是非活用していきたいと思った。
- ・特に図書館データベース、視聴覚資料についての説明は、授業の質の向上に役立つと考えます。
- ・授業での具体例を多く挙げていただいていたので参考になりました。



セミナーの様様

第2回教育サロンを開催

10月30日（金）午後4時40分から18時10分にかけて、CETLアネックスにおいて、本年度第2回目の「教育サロン」を開催しました。

今回のサロンには、教歴の短い若手の先生方8名が参加し、関田センター長を囲んで、日頃抱える疑問や課題について互いの意見交流を行

いました。「授業アンケートの自由記述内容をどのように受け止め自己の教育改善に活かしていくか」、「多人数の授業をどのように工夫して行うか」、「精神的に不安定な学生にどう対応していくべきか」等について、活発な意見交換が行われました。

CETL学習セミナーの実施

前期に好評だった2年生を対象とした「学習セミナー」を9月18日、21日および30日に行いました（18日と21日は「タイムマネジメント講習会」、30日は「ディスカッション・スキル講習会」）。

今回は、1年生にも門戸を広げましたが、キャンパス内に掲示されたポスターを見て参加を希望した3年生もおり、3回の実施で延べ55名の学生が参加してくれました。

セミナー終了後に行ったアンケートには、「面白かったです！モチベーションが上がりました！」、「今回のような素晴らしい内容のものがあれば、是非またセミナーに参加したい」といった声も多く、好評でした。

次年度から学習セミナーはGPの取り組みの一環として、その内容、回数ともに拡充していきます。前・後期に行った試行は、そのための貴重な実験となりました。

Information

「学生と読書」講演会

11月20日午後4時40分より、図書館ブラウジングルームで、京都大学の溝上慎一先生をお呼びして「学生と読書」について講演会を行います。

これは学習セミナーの一環として、図書館との共催で行うものです。教員の参加も自由ですので、ご関心のある方はご参加下さい。

編集後記

後期第一号のクォーターリー編集に携わって、改めてCETLの活動の多様さに驚きました。10月から新たなGPの取り組みも始まり、教育・学習活動支援には終わりがいいことを実感しています（S）。

C E T L Quarterly No. 37

編集・発行

創価大学 教育・学習活動支援センター
〒192-8577 八王子市丹木町1-236
Tel: 042 (691) 9782 内線 2146
E-mail: cetl@soka.ac.jp
<http://cetl.soka.ac.jp>